

History of Asahi Ward

旭区

昭和30年頃の現旭東中学校付近(写真:中村英祐)

区民による地域史づくり・人づくり

平成21年3月

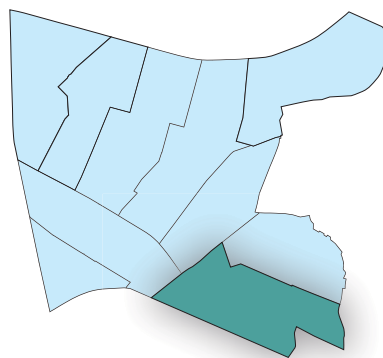
旭区いまむかしの今昔を知る会
大阪市旭区役所

地域史

大阪市旭区地域史づくりワークショップ

し ん も り

新森 編



旭区地域史

区民による地域史づくり・人づくり 大阪市旭区地域史づくりワークショップ

平成20年度実施地域 清水・新森・高殿南

はじめに～地域史について

■この「旭区地域史」は、地域の歴史を発掘する区民の取り組みとして、平成20年5月27日から平成21年3月5日の約10ヶ月間に計11回ワークショップを開催し、その成果として参加者の手によって作成されたものです。ワークショップは、地域史の作成とともに、「知って得する旭学講座」などで積み重ねてきた経験等を活かした人材の育成、活動を通じて地域コミュニティのさらなる向上を図ることも目的としています。

■ワークショップに参加された方は、これまで地域を研究されていて歴史について大変知識のある方から、旭区にずっと住んでおられるが地域の歴史をあまりご存じでない方までいらっしゃいましたが、「地域史をつくる」という1つの目標に向かって一丸となり取り組みました。

■今後は、旭区民が作成した初の「地域史」として、多くの方々に興味を持っていただき、地域のコミュニケーションを高めるツールや学校の教材など、様々な場面で活用されていくことが期待されます。

■地域史の作成にあたり、各種資料をご提供いただいた関係機関の皆様、心からお礼を申し上げます。



■第1回(平成20年5月27日)



■第2回(平成20年7月10日)



■第3回(平成20年9月3日)



■第4回(平成20年9月25日)
まちあるき(鶴見緑地)



■第5回(平成20年10月7日)
まちあるき(清水・新森)



■第6回(平成20年10月22日)



■第7回(平成20年11月5日)



■第8回(平成20年12月4日)



■第9回(平成21年1月27日)



■第10回(平成21年2月16日)



■第11回(平成21年3月5日)

旭区でそれはいつから始まったのか？	3	新森公園を発着する市バスの変遷	13
地域の移り変わり	4	新森小路幼稚園	16
新森のテーマ	5	わずかな記憶	17
ワークショップの活動記録	6	写真で見る移り変わり	22
『森小路遺跡』からの旭区の	7	鶴見緑地・自然体験観察園	23
”弥生時代”と”古代大阪”を知る！			
新森中央公園	11		



明治以降の旭区のあゆみ

明治	4年 (1871)	廃藩置県（大阪府を置く）旭区域は摂津県東成郡に属す
	6年 (1873)	千林小学校創立
	8年 (1875)	淀川修築工事着工 水制（ケレップ）工事が始まる 中村小学校（現、城北小学校）創立
	18年 (1885)	淀川左岸決壊し、大洪水が起こる。翌年にかけてコレラが大流行
	22年 (1889)	市制町村制施行（大阪市発足）旭区域は東成郡のまま 清水、古市、城北村がこの頃成立。
	29年 (1896)	淀川大洪水 翌年から淀川改良工事が始まる
	43年 (1910)	京阪電車開通（天満橋～五條間） 蒲生・野江・森小路駅開設
大正	45年 (1912)	この頃、千林商店街ができる。
	6年 (1917)	城北村に初の上水道給水
	7年 (1918)	米騒動が起こる
	11年 (1922)	古市・清水小学校創立 関西工学専修学校(現大阪工業大学)創設
	13年 (1924)	古市耕地整理組合設立 城北村で共同浴場開設
	14年 (1925)	大阪市第二次市域拡張 旭区域が市域に編入され東成区に
	15年 (1926)	城北土地区画整理組合設立
昭和	2年 (1927)	京阪国道(現、国道1号)の舗装工事始まる 京阪電鉄にロマンスカー登場
	3年 (1928)	片町～森小路、東野田6丁目～森小路1丁目間で区内初の市バス運行。
	4年 (1929)	区画整理事業による町名変更が行われる（昭和20年まで） 森小路、北船場、大宮で土地区画整理組合設立。
	5年 (1930)	榎並之荘、清水で土地区画整理組合設立。
	6年 (1931)	市電都島～守口間開通 森小路遺跡が発見される
	7年 (1932)	旭区が誕生（東成区から分区） 新森中央公園開園
	8年 (1933)	京阪国道(現、国道1号)開通 京阪電鉄蒲生～守口間高架複々線工事完成
	9年 (1934)	城北公園開園 室戸台風襲来
	12年 (1937)	御堂筋竣工
	15年 (1940)	城北運河（現、城北川）完成
	18年 (1943)	南半分が城東区、一部が都島区となり、現在の旭区となる。旭公園開園
	20年 (1945)	大阪市東北部大阪大空襲（6月7日） 終戦（8月15日）
	24年 (1949)	旭区役所庁舎再建（火災焼失のため）
	28年 (1953)	台風13号による大洪水が起こる
	32年 (1957)	今里～守口間でトロリーバス運転開始 ダイエー1号店が千林にオープン
	38年 (1963)	太子橋中公園開園
	39年 (1964)	城北公園に菖蒲園開園
	43年 (1968)	阪神高速道路北浜～森小路間開通
平成	44年 (1969)	市電全廃
	45年 (1970)	豊里大橋完成、平太の渡し廃止 旭区役所新庁舎完成 万国博覧会開催
	46年 (1971)	阪神高速道路守口線開通 旭区全域が下水処理区域になる
	48年 (1973)	城北運河魚つり場オープン
	49年 (1974)	城北運河歩行者専用道路完成 大阪市区画により26区に
	50年 (1975)	旭図書館、区老人福祉センター開設
	52年 (1977)	地下鉄谷町線都島～守口間開通 千林大宮、太子橋今市駅設置。
	58年 (1983)	淀川大堰竣工
	元年 (1989)	菅原城北大橋開通 大阪市区画により24区に
	2年 (1990)	国際花と緑の博覧会開催
	6年 (1994)	旭スポーツセンター開設
	12年 (2000)	旭区民センター・芸術創造館・旭図書館完成
	14年 (2002)	旭屋内プール、城北市民学習センター開設。

※「ぶらり探訪 旭の見どころ・知りどころ」より抜粋



旭区でそれはいつから始まったのか？

資料提供：小井戸茂

項 目	年 代	摘 要
電気	明治43年	京阪電鉄毛馬火力発電所より供給開始
水道	大正11年	城北地区一部で送水開始、大正13年に古市・清水地区まで普及
ガス	昭和3年	大阪ガスが旭区へ供給開始、昭和6年に区内全域に供給
私鉄	明治43年	京阪電車開通、森小路駅開設。昭和6年に新線(B線のみ)へ移転
市電	昭和4年	都島本通～今市間開通、昭和6年に今市～守口間開通
市バス	昭和3年	森小路1丁目～片町間運行開始、昭和6年に森小路8丁目まで延長
トリーパス	昭和32年	守口～今里間運行開始、昭和45年に廃止
地下鉄	昭和52年	谷町線都島～守口間開通
公園	昭和7年	森小路中央公園開園、次いで昭和9年に城北公園開園
郵便局	大正6年	特定局森小路郵便局開局（ただし集配は本局鯉江郵便局）
電報	昭和8年	森小路郵便局で取扱い開始
電話	明治35年	今福郵便局電話分室で交換事務開始
警察署	昭和16年	旭警察署開署、以前は今福、網島、守口3署の管轄
消防署	昭和23年	旭消防署開署、以前は今福消防署の管轄
区役所	大正14年	東成区役所出張所を千林に設置、昭和7年に旭区役所新設
保健所	昭和16年	森小路保健所開所（大宮2）、昭和38年に新庁舎へ移転
税務署	昭和7年	旭税務署開署（野江中3）、昭和41年に新築移転
総合病院	昭和7年	区内にはなし。最寄り大阪高等女子医学専門学校付属病院開院
市民病院	昭和28年	市立城北市民病院開院、平成5年に市立総合医療センターに併合
大学	昭和24年	摂南工業大学発足（半年後に大阪工業大学と改称）
実業高校	大正12年	京阪商業仮開校、公立では昭和12年に第六職工学校開校
普通高校	昭和28年	府立旭高等学校開校（設立当初は府立第48高等学校）
新制中学校	昭和22年	市立旭第一中学校開校、昭和24年に旭陽中学校と改称
小学校	明治6年	組合立千林小学校創立、大正11年に古市・清水両小学校に分離
養護学校	昭和15年	市立思斉学校開校、昭和32年に思斉養護学校と改称
幼稚園	昭和13年	私立新森幼稚園開園、公立では昭和52年に市立旭東幼稚園開設
保育所	昭和8年	市立生江保育所開所
図書館	昭和50年	旭図書館開館、平成12年に現在地に移転
映画館	昭和12年	江南キネマ開館
大相撲	昭和12年	大阪国技館開館（関目は当時旭区）、昭和16年に中止
水都祭	昭和38年	旭区淀川河畔で開催、昭和49年まで。以後天神祭奉賛行事に併合
ラジオ	大正14年	(社)大阪中央放送局放送開始、昭和6年頃から受信機普及
テレビ	昭和28年	NHK本放送開始
地方銀行	大正9年	加島銀行森小路出張所開店
都市銀行	昭和8年	三和銀行森小路出張所開設、昭和13年に支店に昇格
近代工場	明治30年	奥村織布工場開業、旭区の工業の始まり
市場	大正9年	古市村営公設市場開場（後の森小路公設市場）
スーパー	昭和27年	ニチイ千林店発足（赤のれんが改組）、後のスーパーへ
百貨店	昭和6年	高島屋森小路店開店、のち斜め向かいへ移転
近代的国道	昭和8年	国道2号（別名京阪国道）開通 ※現在は国道1号
高速道路	昭和43年	阪神高速森小路線開通
運河	昭和15年	城北運河完成（昭和12年に古市橋開通）
渡し船	明治37年	平田の渡し（豊里村営で）。延宝4年(1676)以降個人経営
市会議員	昭和4年	現旭区出身の第1号 寺西圓治郎氏
水洗便所	昭和47年	今福下水処理場完成で実現
町会隣組	昭和15年	昭和22年に解散、現行の制度は昭和50年に旭区地域振興会発足から
現住居表示	昭和46年	町は削除、丁目・番・号制に改正…新地名登場(高殿、新森、清水、太子橋)



地域の移り変わり

協力：大阪市史編纂所



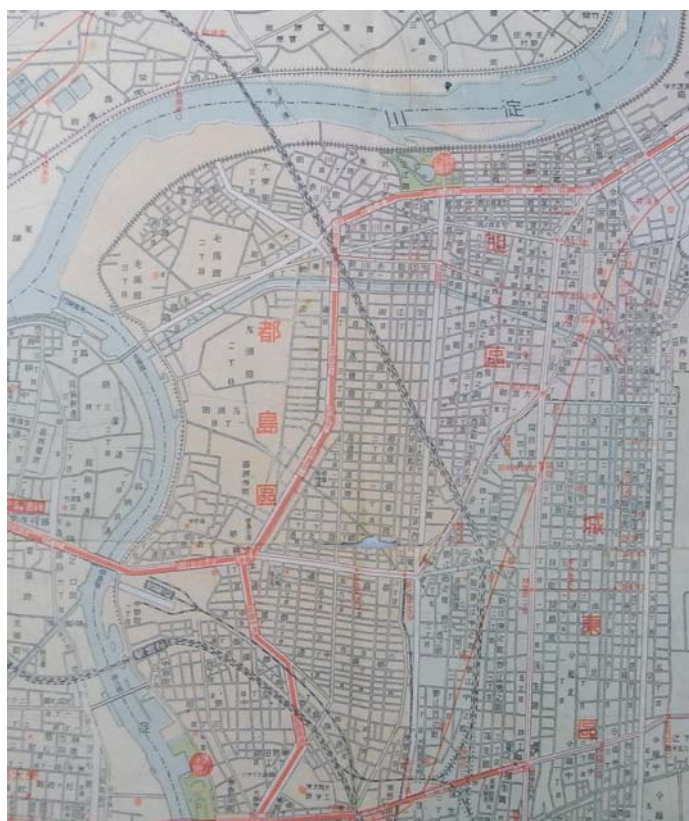
■明治20年(1887年)の旭区周辺

1887



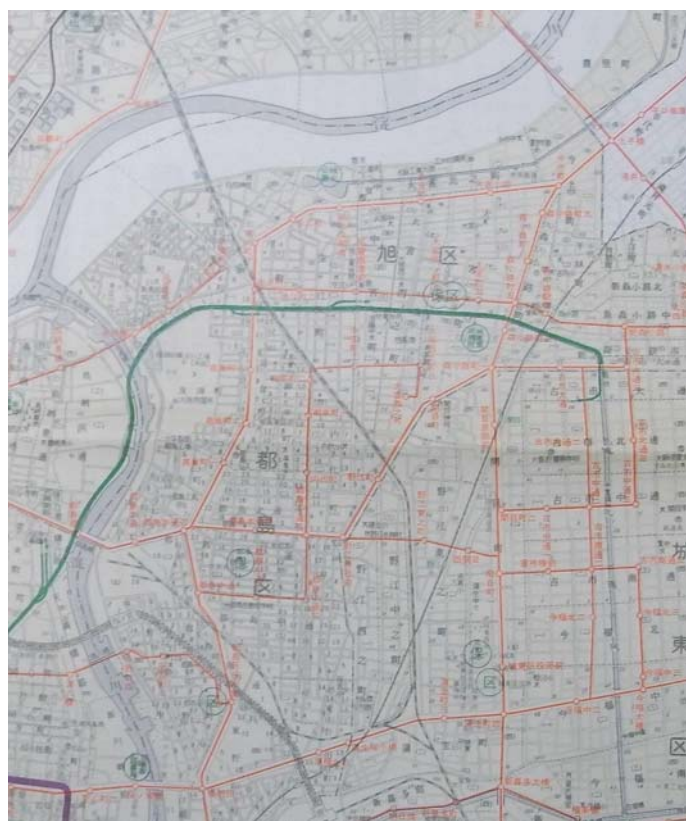
■大正14年(1925年)の旭区周辺

1925



■昭和29年(1954年)の旭区周辺

1954



■昭和45年(1970年)の旭区周辺

1970

新森



大阪市旭区
新森1丁目～7丁目

shimmori



森小路遺跡(まちあるきの様子)



ワークショップの活動記録

ワークショップ開催日	議論のポイント・内容
第1回 平成20年5月27日	してみたいこと・テーマの種を出し合う
第2回 平成20年7月10日	テーマを決める・見学やまちあるきの企画①
第3回 平成20年9月3日	テーマを決める・見学やまちあるきの企画②
第4回 平成20年9月25日	まちあるき①【鶴見緑地】
第5回 平成20年10月7日	まちあるき②【清水・新森】
第6回 平成20年10月22日	まちあるき③【高殿南】
第7回 平成20年11月5日	まちあるきの整理・担当テーマを決める
第8回 平成20年12月4日	持ち寄った資料を束ねる・発表会の検討①
第9回 平成21年1月27日	持ち寄った資料を束ねる・発表会の検討②
第10回 平成21年2月16日	持ち寄った資料を束ねる・発表会の検討③
第11回 平成21年3月5日	持ち寄った資料を束ねる・発表会の検討④
成果発表会 平成21年3月21日	
旭図書館多目的室において、 地域史づくりワークショップ発表会 「旭区 いま・むかし」を開催	



まちあるき【清水・新森】



【プログラム】

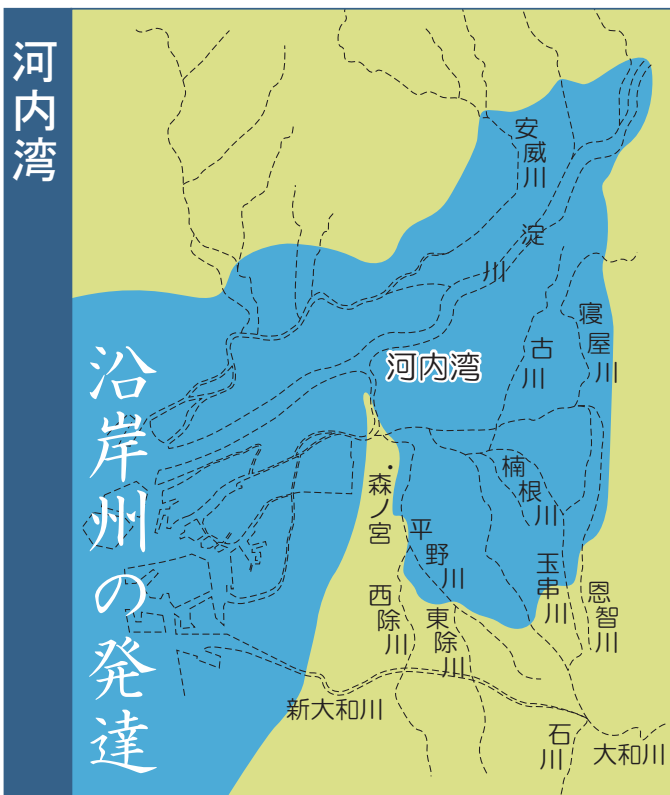
- ①千林商店街の変遷
- ②映像で見る旭区
- ③平太(平田)の渡しを調べて
- ④旭図書館の蔵書紹介(旭区の歴史の調べ方)
- ⑤昔の高殿南
- ⑥新森中央公園と市バスの変遷
- ⑦地域史「清水」



『森小路遺跡』から旭区の "弥生時代"と"古代大阪"を知る!

大阪の地形の移り変わり

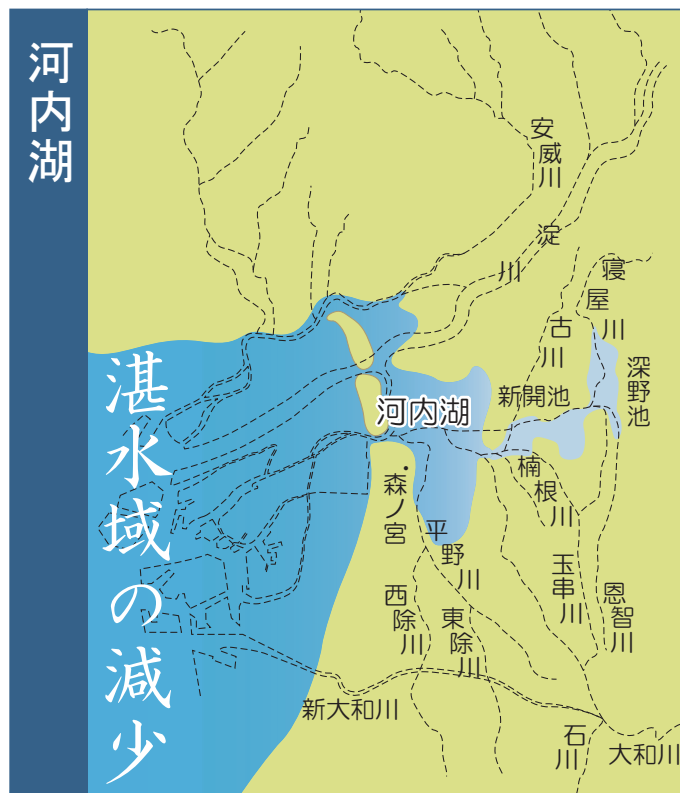
大阪は、十万年以上昔に**ナウマン象**がいた説もある。数万年前、今の天王寺区を含む**上町台地**が、洪積層の岩層地帯で**大入江**の大阪湾に突き出していた頃も、この後の無土器時代(交野市神宮寺や藤井寺市国府遺跡から石器出土)も、五千数百年前の縄文時代(四天王寺や西日本一の貝塚・森之宮遺跡から土器出土)前期も、**旭区**は“河内湾”と呼ばれる大阪湾とつながる**海の中**にあった。大阪は四千年前～三千年前に上町台地の先端から砂州がのび、**淀川**から運ばれた**土砂**により塩分が減じ“河内潟”そして“河内湖”へと順に**陸地化**していった。



河内湾の時代



河内潟の時代



河内湖の時代

森小路遺跡から出土の

穴を開けてから捨てていたとみられる土器 (資料: (財)大阪市博物館協会 大阪文化財研究所)



旭区最初の住人たちの“ムラ”の跡

約二千年前の**弥生時代**に中国から朝鮮半島を経由して入ってきた**農耕文化**により、人間は山地の狩猟から農耕の低地へと移り、潟から湖化の“河内湖”や淀川に近く**水利**の良い、自然堤防上の**森小路**に**人が住み始め**、ムラができたと考えられている。近くには、東淀川区の崇禅寺遺跡、東大阪の高井田遺跡、隣接守口市の八雲遺跡などがある。東住吉区の桑津遺跡、平野区の瓜破遺跡、南河内の貴志遺跡からも農耕遺跡が出ている。



ムラの跡

弥生時代の主な出土品 (資料: (財)大阪市博物館協会 大阪文化財研究所)



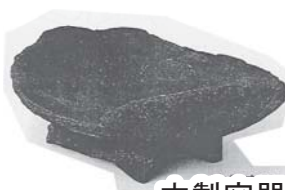
穂摘

弥生時代は日本列島内で、**稲作**農耕が行われ、米を主食にした最初の時代でした。**森小路遺跡**でもこの地で稲作が行われたことを示す石包丁(稲の穂を摘み取る石器)や木製の鍬・臼などの農具をはじめ、**弥生時代**は戦争があったといわれていて森小路遺跡でも、当時武器とみられる石鍬や石槍をはじめ、戦争か祭りに使用したと思われる**磨製の石戈**(刃の先状)も出土している。モニュメント住宅の**柱穴跡**、**小貝塚**に淡海水の**シジミ**が多く、**ハマグリ**の貝殻も出土。

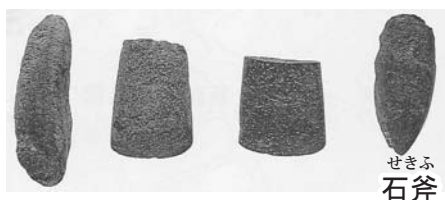
土器・石器・木器などの生活用品のほか、ムラはずれには**甕**も出土し、方形周溝墓なども推測されている。水田跡は特定されていないが、ムラ周辺部の低湿地と考えられている。



石包丁



木製容器



石斧



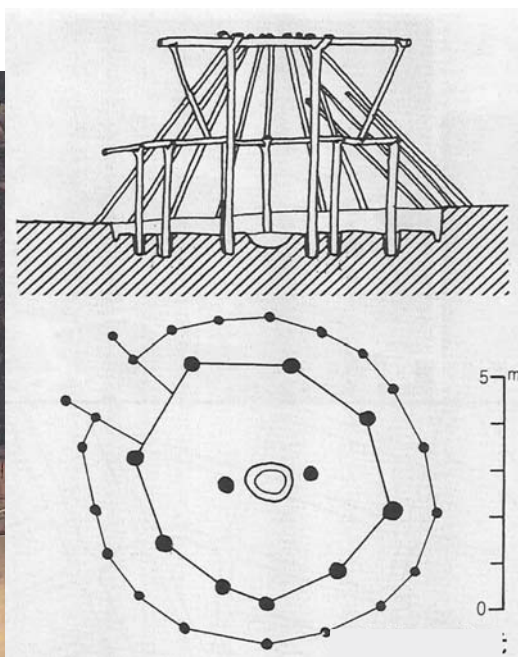
←小型石斧

弥生時代の森小路遺跡

森小路遺跡は、淀川南岸の自然堤防上に人が住んだ**ムラ跡**で海拔2.5m～5mの**低層(平地)遺跡**として**貴重**である。弥生中期と古墳中期の各期出土品は多数あるが、弥生後期から古墳前期の出土品はなく、その間森小路の人々は、河内湖や淀川の洪水被害のため移動したと推測されている。その後人々は、海から海への交通の要所で、**大陸文化の受け入れ**や物資交流の盛んな所として**定住**し栄え、農耕地の開拓により強化したと考えられている。現在住宅地の新森4～5丁目付近、地面をわずか1mも掘り下げた道路工事や調査(約100件)時の砂層からかなり正確に6世紀頃のもの・榎並の庄の荘園期のもの・室町期のものも出ている。



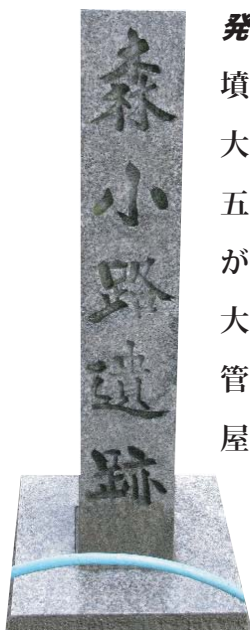
■弥生時代の生活
(写真:大阪府立弥生文化博物館)



■竪穴式住居の復元
(資料:(財)大阪市博物館協会
大阪文化財研究所)

森小路遺跡の発見・調査

森小路遺跡は、**昭和6年**の土地区画整理の際に**発見**された**主として弥生中期の集落遺跡**で、古墳時代・さらに飛鳥・奈良時代のものまで出土し、大阪市顕彰史跡である。京阪森小路駅から東へ五分、新森4丁目の**新森中央公園**に**石碑**と説明版があり、公園の周囲約500mに分布している。大阪市は、昭和49年から遺跡調査を始め、下水管やガス管等の敷設工事とともに、又その後家屋の立替増加時に先立つ調査も行われた。〈小椋〉

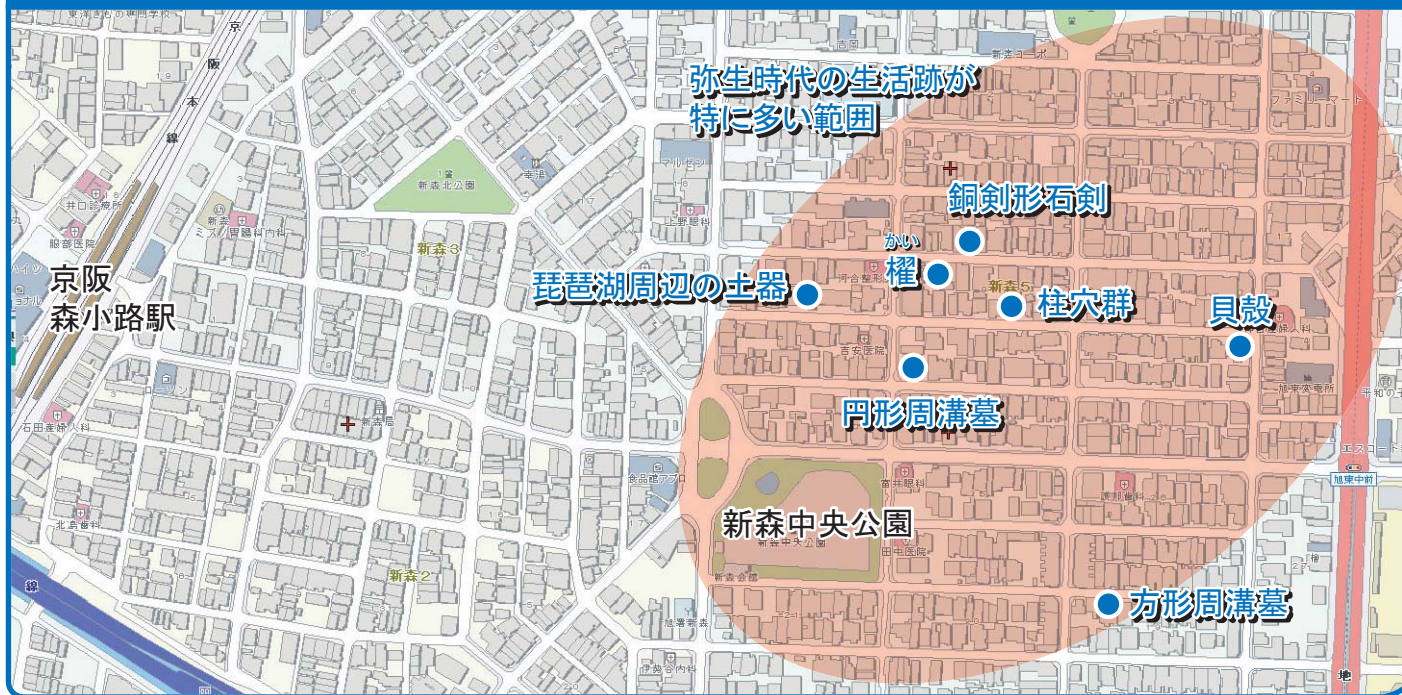


■新森中央公園の碑



■新森中央公園の説明版

森小路遺跡の主な調査地点



「弥生ロマン森小路」

弥生の小道 森小路

歩いて想う

遙かむかしの人々を

小道にロマン 森小路

弥生の人は 貝塚残して

消えてゆき

夢見る想いに

小道はつづくに 森小路

弥生小道に想いは遙か

夢見るロマンがつづいてる

ロマン続いて2000年

弥生の小道 森小路

〈小椋 H 21・1〉

旭区



ぜひ！
当時の様子が今に
つづくことを、多く
の区民の方に足を
運び見ていただき
たいです。

旭区役所の隣、区民センターの
郷土資料室(図書館への入り口)
で、出土品や復元模型のパネル
展示がされている。
弥生当時の様子をはじめ、その
後の森小路遺跡、旭区を学べます。



参考資料

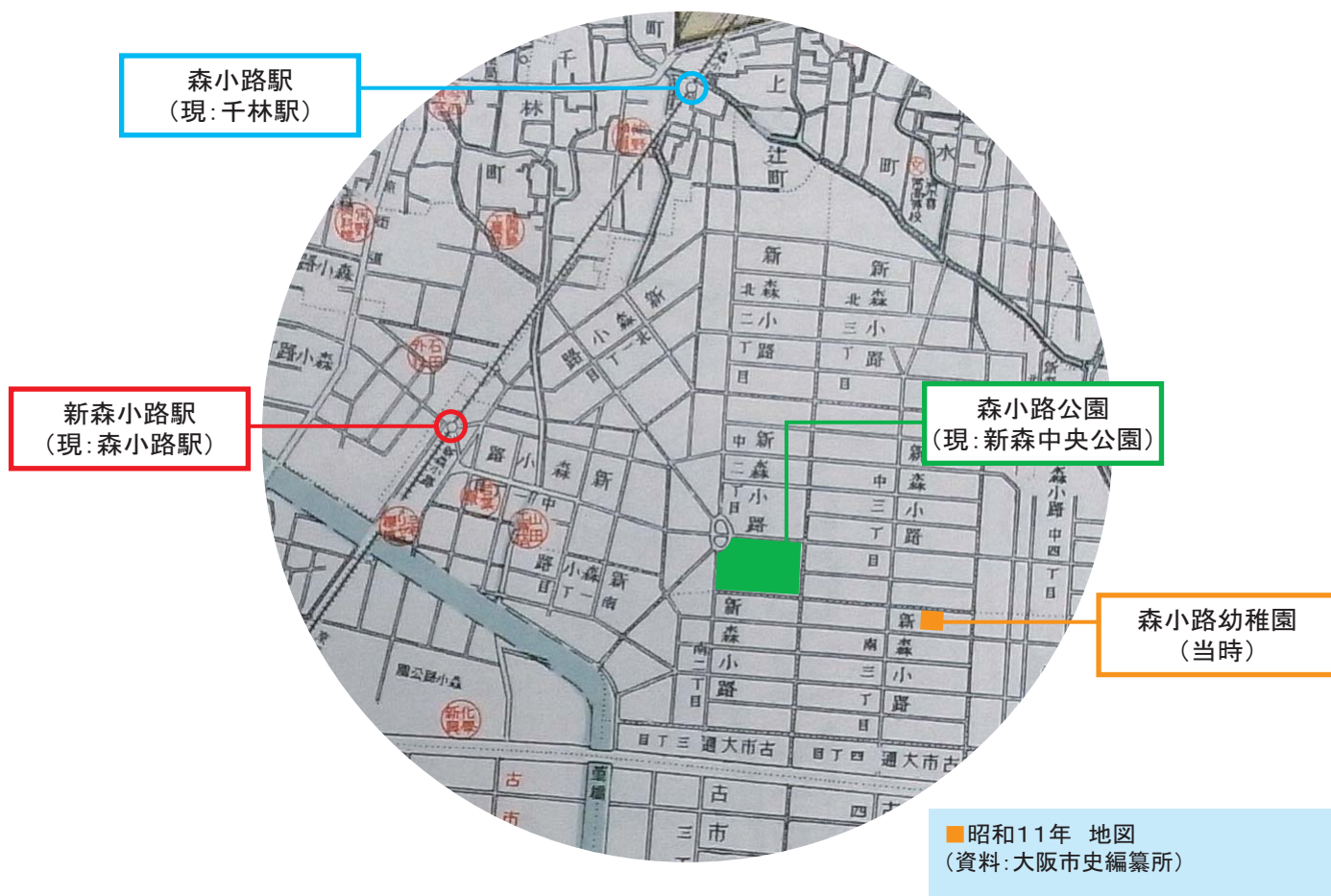
- ・区民センター郷土資料室資料
- ・宮本又次著「郷土の歴史・近畿編大阪府の歴史」
- ・(財)大阪市博物館協会 大阪文化財研究所資料
2005・1、1999・8・4
- ・大阪市いちょう大学講座 大阪の歴史と考古学資料

新森中央公園 しんもりちゅうおうこうえん

区画整理事業と公園

大阪市の公園造成は、大正末期から昭和戦前にかけて、大阪市が市域周辺地区の農地の宅地化を推進する土地区画整理事業の中で進められた。

旭区においても、土地所有者の組合施行により、農地を対象に道路が新設・拡幅され各地区に公園そして宅地が整備されることになり、1932年(昭和7年)市民の憩いの広場として、新森中央公園(当時は森小路公園)が現在の新森4丁目に完成。面積は8,809㎡、園内には藤棚、砂場、水飲み場、便所などが整備された。公園内には現在、森小路遺跡の石碑が建立されているが、これは1931年(昭和6年)この辺りで弥生式土器や石器が発見され、遺跡の存在が明らかになり、当地が弥生時代の代表的な集落遺跡であったことが判明。当時大阪平野に広がっていた河内潟という内海の中の微高地に位置し、その範囲は新森中央公園を中心に半径300~400mにわたると考えられている。



今も受け継がれている

1941年(昭和16年)太平洋戦争が勃発すると、次第に物資の窮乏と流通が混迷の様を呈するといった世情になり、戦時中の食糧難を補うため、付近住民の方々により公園は菜園化し、敗戦後は虚脱状態の中であって誰ひとり公園を顧みる者もなく荒れるにまかせていた。

そのような状況の中、いち早く戦後復興を願う地元市議員と地域住民の協働により、1950年(昭和25年)名称が新森小路公園と改められるのと同時に、全市の愛護会の草分けとして新森小路公園愛護会が誕生した。

公園愛護会の事業として、1953年(昭和28年)には、盆踊り、素人のど自慢、また園内に青空スクリーンを設置しての映画会が催された。特筆すべきは、社会奉仕活動として今日まで連綿と受け継がれてきた公園の定期清掃もこの年から始まっている。翌1954年(昭和29年)には植木市が開かれ、また公園祭が実施されることになり近隣の清水小学校、新森小学校、旭東中学校の参画による有志舞踏や漫才・浪曲・曲芸などが演じられた。



■新森中央公園(写真:旭区史より)

1955年(昭和30年)には初代の噴水池が竣工し、動物園よりガチョウ2羽、鯉15匹が寄贈され、竣工式典では大阪市警視庁音楽隊による演奏に合わせ伝書鳩50羽が放たれ大空を舞った。「ひょっとして、公園に居着いている鳩の中に当時の子孫がいるかも…!」そして翌年、園内の南西角に児童館が建設された。

1957年(昭和32年)、当時まだテレビが一般家庭に普及していない頃、大阪テレビより園内にテレビ(当時は白黒)が設置されることになり、以降は放送開始の夕方頃からテレビ塔の前は力道山のプロレス番組など放映を観る(場所取りをする人も多く)黒山の人だかりだった。テレビ塔は、その後テレビが急速に普及したのに伴い、5年後の1962年(昭和37年)に撤去された。

新森中央公園に改称

以降、公園愛護会の事業推進の中で、植木市、大運動会(子供の日)、夏休みのラジオ体操、盆踊り、旭区民大会、公園祭りなどが毎年開催された。日本初の万国博覧会が千里で開催された1970年(昭和45年)頃は、高度成長期と相まって地域住民の増加により各催しの参加者も大変多く、盆踊りなどは6, 7重もの輪ができ、非常に込み合った中で老若男女が踊りに興じ大盛況の様相であった。また7~9月の8が付く日には、公園の周辺にいつの程にか夜店が多数出るようになり、子供達で大いに賑わったものである。1972年(昭和47年)新森小路公園から新森中央公園に改称。

1981年(昭和56年)自動放送設備付きの時計台が新設され、翌年には地域の集会場を建設するため児童館が無くなり、1983年(昭和58年)に跡地の南西角に新森会館が竣工。同年公園東側に道端広場とゆずり葉の道が完成した。1987年(昭和62年)には、永年にわたり地域住民に親しまれてきた噴水池が大改造され、周辺も装いを新たにして現在の公園の姿となっている。〈原田〉

新森地区公園愛護会は、新森中央公園を核とする北・東・南・南小公園と計5つの連合組織が連合組織で現在会員数約2,700人。これまでに市民表彰をはじめ建設大臣賞、総理大臣賞、2005年(平成17年)には春の緑綬褒章を受章。

■参考文献:旭区史 新森中央公園愛護会のしおり



■新森地区公園愛護会 公園祭 於新森中央公園

装い新たな公園の姿



■ 現在の新森中央公園(写真:上田泰彦)



新森公園を発着する市バスの変遷

思い出のバス車両



戦後の1940年代後半から1950年代半ばまで(昭和20年代)の頃は、戦災復旧のなかの衣・食・住窮乏、ジェーン台風による高潮災害(昭和2

5年)など激動を経て、本格的な都市復興に向かう中、人口の増加が市域周辺部に偏在してきた時期である。

■当時のバス車両
(写真: 旭区ホームページより)

■1952 (S27) 年 当時の乗車料金

大人	(1区券)	15円
子供	(1区券)	10円
回数券	(7区券)	100円

■当時の乗車券



■昭和26年 1区普通券

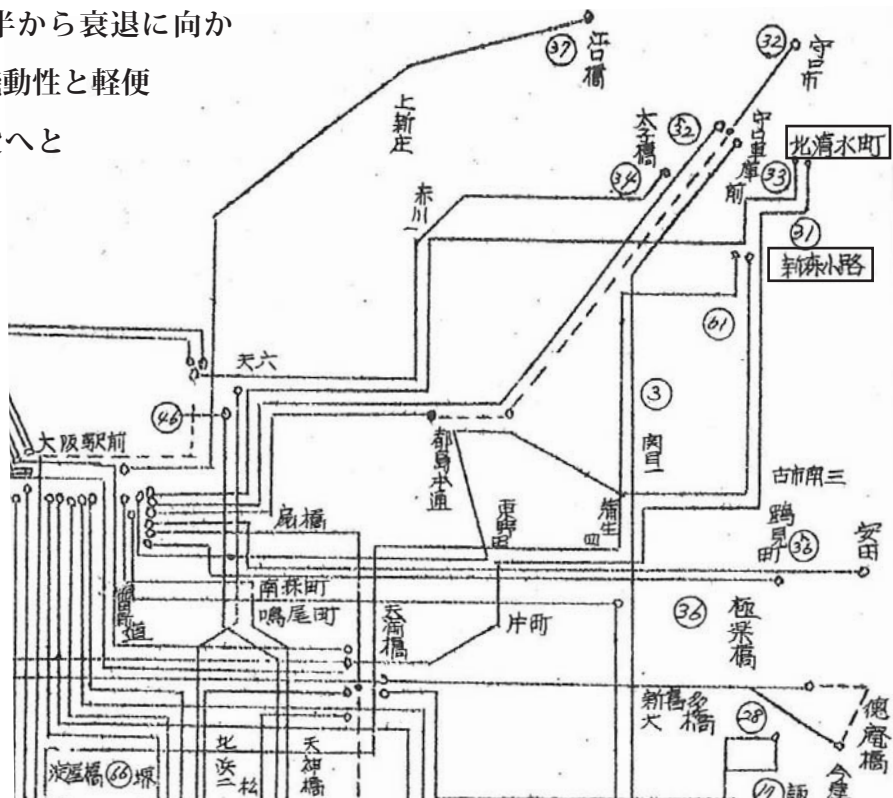
当時、新森・清水地域から都心へ向かう交通アクセスとしては、唯一京阪電気鉄道を利用するのみであったが、当地域の人口増に伴い都心に至る新たな交通需要に迫られ、1952年(昭和27年)に新森公園そして北清水を発着する市バス路線(北清水町一境川、北清水町一大阪駅前)が開通することとなった。乗車料金は、1区大人15円、子供10円、別に回数券7区券100円であった。当時の市バス事業としては、昭和26年に木炭車が姿を消し、わが国初のワンマンカーが登場、昭和28年には大阪駅前―神崎橋間にトロリーバスが開通している。

■昭和26年
回数券/7区券

(資料: 大阪市交通局百年史より)

わが国初のワンマンカーが登場

1957年(昭和32年)には、難波方面への路線(新森小路―難波)が新設され、これまでの大阪駅方面に加え難波方面にも乗り換えなしに行くことができ大いに利便性が増した。市バス事業は、昭和30年代後半から衰退に向かう市電に代わり、その機動性と軽便さから市営交通の主役へと大きく成長したが、その後のモータリゼーションの進展や、定時性の喪失、運行速度の低下、また地下鉄網の整備拡充により、市バスの乗客数が次第に減少してきた時期でもある。



■S32. 4.1現在の路線(資料:大阪市交通局事業概要(昭和32年度))



■昭和37年バス車両
(写真:大阪市交通局百年史より)

1964年(昭和39年)東京オリンピック開催後の昭和40年代に入ると、道路交通のマヒ状態が慢性化し、機動性を誇る市バスも交通渋滞に巻き込まれて運行効率が低下するとともに乗客の信頼を失い、乗客数は著しく減少した。当時の市内交通は、大量輸送手段の地下鉄網の拡大に伴い、1969年(昭和44年)には市電が全廃となり、翌1970年(昭和45年)日本万国博覧会が千里で開催されたその年にトロリーバスが守口車庫前―杭全町間を最後に全廃された。

地下鉄網の拡大とバス路線の見直し・整備

そのような状況の中、新森・清水地域から2区間の境川、難波駅前行きの路線が廃止された。一方では地下鉄谷町線が、1970年(昭和45年)天六工事現場でのガス爆発事故など苦難を経て、1974年(昭和49年)都島まで延伸され、その年に全面的なバス路線の再編成が実施されたのに伴い、新たな2系統(新森公園前―上新庄駅前、新森公園前―布施駅北口)が新設されることになった。

1970年代後半（昭和50年代）に入ると、市内交通は地下鉄を根幹とし、これにバスを有機的に配置した交通網が整備された。すなわち地下鉄と市バスの乗り継ぎ制度が充実し利便性が図られた。地下鉄谷町線は、1977年（昭和52年）に都島から守口まで延伸され1983年（昭和58年）には大日まで開通した。新森公園を発着するバス路線は、その後も路線の整備・再編成が実施されてきたが、2006年（平成18年）地下鉄今里線が開通したのに伴い、2008年（平成20年）現在、新森公園前―天満橋・大阪駅前・布施駅前の3系統となった。〈原田〉

市バス運転系統の主な変遷

年	系統	路線	備考
1952 (S27)	31 系統 33 系統	北清水町―境川 (2区間) 北清水町―大阪駅前	天満橋経由 赤川1丁目経由
1957 (S32)	31 系統 33 系統 61 系統 66 系統	北清水町―境川 (2区間) 北清水町―大阪駅前 新森小路―大阪駅前 新森小路―難波 (2区間)	東野田経由 天満橋・淀屋橋経由
1974 (S49)	臨 27 系統 臨 31 系統 臨 33 系統 61 系統 66 系統 86 系統	新森公園前―上新庄駅前 新森公園前―天満橋 新森公園前―大阪駅前 新森公園前―大阪駅前 清水小学校前―天満橋 新森公園前―布施駅北口	滝井経由 蒲生町4経由 鶴見5丁目経由 地下鉄深江橋経由
1979 (S54)	支 27 系統 幹 31 系統 幹 33 系統 支 45 系統 幹 66 系統 幹 78 系統 幹 86 系統	新森公園前―上新庄駅前 新森公園前―天満橋 新森公園前―大阪駅前 新森公園前―放出東1丁目 新森公園前―京橋駅前 新森公園前―大阪駅前 新森公園前―布施駅北口	今福西4丁目経由 鶴見区役所前経由 鶴見5丁目経由 都島中通2丁目経由
2008 (H20)	31 系統 33 系統 86 系統	新森公園前―天満橋 新森公園前―大阪駅前 新森公園前―布施駅前	

参考文献:

大阪市交通局事業概要 (年度別)
 大阪市交通局百年史 (本編・資料編)
 大阪市公文書館「大阪の都市交通・年表」、「大阪市営交通の歴史」

新森幼稚園

しんもりようちえん

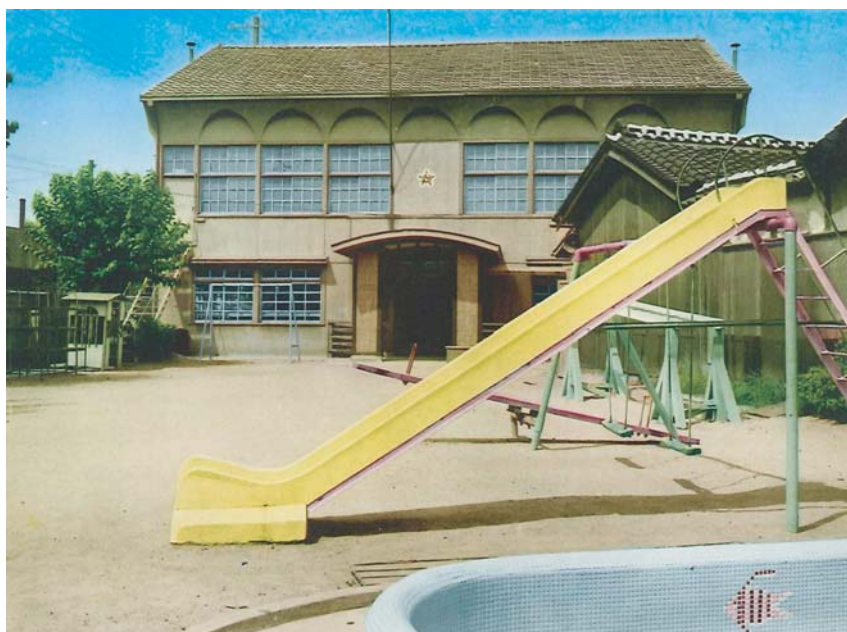


■新森小路幼稚園(本園)
(写真: 保育終了記念アルバムより)

新森幼稚園(当時新森小路幼稚園)は、昭和の戦前に新森地域の宅地化の進展とともに人口が増加する中、1938年(昭和13年)新森中央公園南側の通りを東に2ブロックのところに創立された。園児数は41名。

戦後の1948年(昭和23年)、児童の増加にともない京阪電車森小路駅前に新森小路幼稚園の分園が併設された。1975年(昭和50年)には木造の本園が老朽化したため鉄筋コンクリート造りに改築された。

1986年(昭和61年)分園が鉄骨耐火構造3階建てに改築されるとともに本園が閉園となり、現在に至っている。〈原田〉



■新森小路幼稚園(分園)
(写真: 保育終了記念アルバムより)



わずかな記憶

昭和10年から23年春までの記憶…

記憶…これは、私の数え年10歳から23歳の春までの微かな記憶を綴った物語です。

思い出なので不確かな点はお許し下さい

あなたが
住んで
いたの
では。

「平成20年10月7日、新森～清水地域のまちあるきに参加して」

まちあるき是新森中央公園から、ゆずり葉の道を北にむかって歩きました。

途中で「昔あなたが住んでいたのはこの辺りではないか」と教えて頂きました。

よみがえる昔の記憶とは全く別の場所のようで、マンションや高い建物などばかりで空き地は少しも見あたりませんでした。

当時、私は両親と姉妹3人で新森小路中2丁目79番地に住んでいました。

近くには市場があり、そこを東に入った2,3軒目で、筋向かいの角には美しい3姉妹がお母さんと文具屋さんをしておられました。校区は清水でしたが転校もせず古市尋常高等小学校に通っていました。

昭和12年には日支事変が起こり、同16年には、太平洋戦争が始まり、この間、同14年には枚方の禁野火薬庫の爆発で、当時は理由が解らぬまま真っ赤な夜空に破片のようなものが飛び散るのを不安な気持ちで眺めていたのを覚えています。

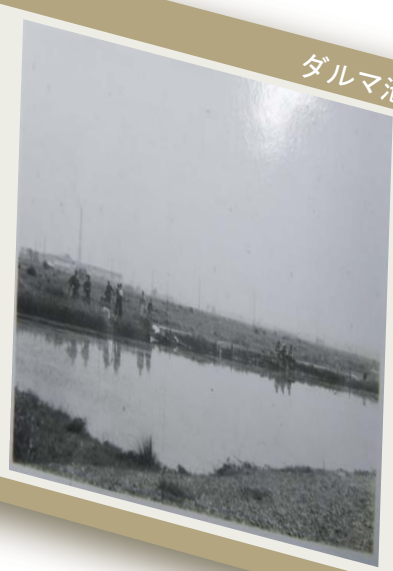
近所には男の子が5～6人、女の子4～5人ほど学校から帰ると、三輪車をつなげて乗りまわしたり、地面に輪をかいて石蹴り、けんぱ、ビー玉にめんこ、縄跳び、ゴムとび、ばい貝まわし、鬼ごっこ、かくれんぼ、戦争ごっこ、綾取り、せっせっせ、着せ替え人形、などなど。小学校6年頃は、くんずほぐれつ、仲良く喧嘩も適当にしながら楽しく過ごしました。お向かいの家庭で日曜学校を開いておられたので、みんなで押しかけ賛美歌を習ったり、お遊戯や演劇もした記憶があります。



少女時代



近くの広場(アシが生えていた)



ダルマ池

あ
っ
ち
と
、
こ
っ
ち
。

小学校を出て、昭和14年4月には女学校に入り近所の男の子らも中学校へ通うようになると、あれ程親しくしていたのに、道を歩くときは向こうと、こっち、電車に乗るときは前と後ろ、2両連結では、前の車両は男子、女子は後ろの車両と決められていました。当時、京阪電車の「新森小路」駅から京都方面へ乗車していましたが、聖母女学院には専用電車というのがあって、幼稚園・小学校・女学校と可愛い制服のお嬢さん達が、笑いさざめきながら乗っていくのを少し羨ましく眺めていたものです。大阪方面へは、信愛女学校の専用車もあったとのことでした。



淀川

戦争が激しくなるにつれ、今までの日常生活も徐々に変わってゆきました。隣組というのができて、「とんとんとんからりと隣組、障子を開ければ顔なじみ、まわして頂戴回覧板、助けられたりたすけたり」の歌がはやり、なんでもみんなで助け合っという雰囲気が醸しだされてきました。乏しい物資の補いからか、同じ班の人たちが寄り集まって共同炊事もやりました。これは子供心にも関心十分で、今日はどんなご馳走かななどと、わくわくしたことを思い出します。

後先は明確ではありませんが、休閑地利用が奨励されそこらの空き地はすべて畑になりました。自給自足でさつま芋、馬鈴薯、南瓜、ねぎなど青い葉もの、私は落花生を作ったこともあります。今考えると、どなたの土地だったのでしょね。

望めない時代。

女学校には全校生で短歌を作って出す催しがあり、当時一年生だった私は「今しがたわが刈り捨てし芋づるを通りがかりの馬食(は)みてをり」という短歌が入選し、喜んだのですが当時は運搬の手段に馬車が使われ、芋づるはおかずどころか、主食の足しにするような生活になっていきました。

日増しに戦局は厳しく隣組では、もんぺをはいて防空頭巾をかぶり、防火訓練、バケツリレー、食料は配給制度になり、貰いにゆくのに列を作って並ぶ、ということになりました。

衣料は切符をもらって交換。好きな物を好きな時に好きなだけというのは望むべくもない毎日でした。お魚は丸のままなので、家で三枚におろすのも上手になりました。

この言葉が言いたい・・・
「好きなことを好きなだけ」



ところで、子ども達は年長がリーダーとなり地域で班を組んで、これも避難訓練と称し清水小学校から旭警察まで歩いたこともあります。

(当時の新森中2丁目)



↑
70年前の著者



城北公園

当時珍しかったバドミントンを
母や姉妹で

空襲が激しく。

そのうちに空襲が激しくなり、近くの空き地に掘った防空壕に夜中であろうが大切な物を持って走り込むことも度々でした。一度あまり疲れていたので家で寝ていたら天井裏を蛇が這うようなざーざーという音がして(焼夷弾かなにか)とても恐ろしく、生きた心地がしませんでした。

ミシンは大切な道具だったので、母と二人で運んだこともあります。

この思い出のいっぱい詰まったシンガーミシンは平成12年室内改装のため涙をのんで廃棄しました。

「春疾風(はやて)戦禍に耐へしミシン捨つ」 貴子

企業からの要請。

たけなわ
戦争酣の昭和19年3月女学校を卒業。進学しないもの、進学しても、文系は皆、挺身隊として軍需工場に働きに出ねばなりませんでした。私は扇町にあった大阪市立工業研究所の女子化学分析技術員養成所に入ることができ、一年間通いました。出征する男子の欠員補充に女子を採用する企業からの要請があったのです。

専門学校3年課程と、分析を主体として1年で卒業するのです。

そんな忙しい中にも教練と称し三角巾の使い方など看護関係の特訓もあり、その最中南海大地震で3階から1階へ揺れながら階段を駆け下りた記憶があります。



運河

造幣局へ入局。

昭和20年4月課程修了後は各自の住居に近い勤務地へ就職となり、私は造幣局の研究課に入りました。最初は電解銅の純度分析で少数以下4桁までの数値が合うまでやらされました。何しろお金の分析なので厳しいのです。職場では男性の応召が相つぎ、課長だけ残りました(昭和20年6月)。陶器のお金が検討されるようになって椅子の上から落下させては強度など計りました。空襲があると局では地下室に退避しましたが、そこには土嚢が積まれており、中身はお金だともまた白金や金の地金とも聞き及びました。(真偽の程は不明です)

戦争が終わり、時代が変わる。

空襲も再々で戦争は終局へと、そして8月15日の玉音放送を研究室で聞きました。敗戦とは・・・

造幣局は米軍に接収され、正門にはMPが立つようになりました。

入局して間のない私には難しいことは解りませんでした。工員さんの入退局時のお風呂場を通っての全身検査はなくなったようです。その年のクリスマスには米兵と合同でコーラス部も入ってパーティーが開けられました。

春には、恒例の通り抜けが。でもこの終戦後初めての昭和21年春だけ中止されました。私も3月の末で仕事の中身が充実していない職場を去りました。(その頃、タバコも配給で、刻みタバコを古いコンサイスの紙などで巻いて作るようなこともしました。)

昭和21年4月から松下乾電池製造所の研究課に採用され、乗り物のない通勤路を20分ばかり歩いて通勤しました。丁度馬場の宮さん(八幡様)の横をすり抜けるようにして。私の家からお宮さんまでは野原がいっぱいでした。官庁の制服支給に比べ会社は私服でした。化学薬品を使うのであちこちに穴があいて、洋服の調達には苦勞しました。父の白緋の着物でワンピースを作ったこともあります。

心の中は。

物資は不足しても、夜の明るい生活は心が癒され貧しいながらもそれなりの会社生活で青春を過ごしました。昭和23年、復員兵士が多くなり、住居も明け渡しを迫られたので当時橋寺町とっていた太子橋へ引っ越したという次第です。今考えるとこの新森小路に住んでいた10年程は私にとっても世の中にあっても古今未曾有の変化多い時期だったといえるように思います。〈豊田〉

(以上、文中写真は父の撮影製作によるもの)

写真で見る移り変わり

(写真: 中村英祐)

昔



昭和30年頃

現在



付近

昔



昭和30年頃

現在



付近



■ 生き生き地球館前より自然体験観察園を臨む

鶴見緑地には、花博が1990年（平成2年）に開催された後、緑豊かな花博記念公園として再整備され、その一つに自然体験観察園があります。

自然体験観察園は、都市型生活が進む中ふれあうことが少なくなった自然環境や自然の生態について、理解と関心を深めて環境を守ることの重要性を認識してもらうため、日本の伝統的な棚田や雑木林、ため池や水車、蓮田、母屋など昔の農村の里山風景がコンパクトに再現されています。

昭和初期から経済成長黎明期ごろまでの清水・新森地域は、田畑の中に集合住宅が建ち並ぶ状況で、特に現在の内環状線から東は一面に稲田や蓮田が水路とともに広がりを見せていました。自然体験観察園では、昔日の清水・新森地域の風景と農家の暮らしむきなど当時の様子が偲ばれます。〈原田〉



■ 田園より母屋を臨む



■ 畦道

（写真3点：大阪市立環境学習センター「生き生き地球館」）

旭区地域史

区民による地域史づくり・人づくり 大阪市旭区地域史づくりワークショップ 【新森編】

平成21年3月

- 編集／旭区いまむかしの今昔を知る会
- 発行／大阪市旭区役所区民企画担当
- 協力／総合調査設計株式会社

この冊子は、区民の方が中心となって現地確認、聞きとりなどの調査、情報収集をして作成しました。

旭区の今昔を知る会からのお願い

旭区の地域史づくりにご協力ください。

旭区の歴史を子どもたちに残すため、みなさんが持っておられる古い写真や資料をお貸しください。

■江戸時代や明治時代から昭和40年代頃までの、旭区の風景、行事などを写した写真、又は古い資料や道具などなんでも結構です。

■お借りしました写真や資料等は大切に取り扱い、写真データ等におさめた後、返却いたします。

■お借りしました写真や資料等は、地域史作成のための資料や地域史に掲載させていただくほか、旭区役所が実施します各種事業に使用させていただく場合がありますので、ご了承をお願いいたします。

なお、地域史は今後数年かけて作成する予定ですので、お借りしました資料等の掲載にはお時間がかかることがあります。
詳しくは旭区役所区民企画担当(企画振興)までお問い合わせください。

「旭区^{いまむかし}の今昔を知る会」とは

平成18年度から公募で集まったメンバーで、区内10地域の身近な歴史や思い出などをとりまとめて、順次「地域史」を作成しています。本会では、地域史の作成を通じて、これまで積み重ねてきた経験等を活かした人材の育成、コミュニティのさらなる向上を目指すものと考えています。



平成21年3月

本内容に関するお問い合わせは
大阪市旭区役所区民企画担当まで
tel06 (6957) 9734